

中期計画 (2019～2021)

千里国際 中等部・高等部 責任者名：千里国際 中等部・高等部校長

各学校での承認
年月日 会議体名

【3年間の運営方針】	【3年後のありたい状態】
<p>1. 人材育成、教育の方針</p> <ol style="list-style-type: none"> 世界市民育成：「Informed, Caring, Creative Individuals Contributing to a Global Community」を育てる。世界人権宣言の趣旨に基づいた世界市民として、世界のどこかで貢献ができる(Mastery for Service)人物を育てるキリスト教主義教育に基づく全人教育を実践する。 カリキュラム再編：Kwansei コンピテンシーに繋がるSIS Learning Compassに基づいてカリキュラムの再編を行う。6年間の学びのシーケンスを一層可視化する。SGHで培った探究スタイルを持続発展させる。(ポストSGHプログラム) 6年一貫教育を強化：一般生は中学1年生からのみ受け入れる。(院内推薦は高等部からも)(帰国生はどの学期からでも) バイリンガル環境：言語サポートの体制を教科し、日本語での学習経験が浅い帰国生徒を受け入れやすくする。 IBDP：2013年にSISに在籍しながらOIS生徒と共にIBDPを取得する制度を確立したが、日本語IBDP授業の導入には制度上の問題があり断念している。これを克服する方法を検討する。 STEM/STEAM/STREAM：理工学部との連携、及び、校内での理数系の教員の協働により、理数系プログラムを発展させる。 世界標準の教育：大学との連携により、国際的な学会、コンペティション、カンファレンス等の参加の機会を増やし、高校在学中に世界標準のアウトプットの機会を持つ。 卒業後進路：関西学院大学への院内推薦率を上げ、10年一貫の教育を発展させる。同時に、海外大学への進学率も伸ばす。 	<ul style="list-style-type: none"> ● カリキュラム再編により、6年間の学びのシーケンスが向上し、一貫教育が実現 ● 自由選択制度の仕組みが安定することで高校生の学びの質が向上 ● 言語サポートの充実により、帰国生徒の率が伸びる ● より多くのIBDP生徒育成 ● より多くの海外との連携、提携 ● 関西学院としてのアイデンティティが一層浸透し院内推薦の人数増加 ● 海外大学進学率増加 ● 国際教育実践のトップ校(老舗校)としての知名度あげる
<p>2. 児童・生徒獲得の方針(箇条書きもしくは文章で)</p> <p>SISの生徒獲得は、海外へのアプローチと国内でのアプローチの二つの側面を有し、それぞれのニーズに応える戦略が必要である。帰国生徒率を上げるために、前者に一層力を入れると同時に、国内での知名度の向上を目指す。</p> <p>◎ 海外へのアプローチ：同窓会の協力を得ての独自説明会開催も引き続きの検討事項。メディアの活用、SNSの利用、ウェブの開発にも一層尽力する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 帰国生徒の割合をあげる

◎ 国内でのアプローチ:2017 年度より少しずつ進めてきた塾との交流を発展させる。SISやSOISをサポートしてくれる卒業生や元保護者とのコミュニケーションの向上を目指す。国内での情報発信メディアの再検討。	◎ 国内での知名度を上げる。関西学院の擁する「国際学校」の存在感を高める。
--	---------------------------------------

3. 中期的な課題(箇条書きで)

- ◎ カリキュラム再編の必要性(文科省の学習指導要領、SISの独自性強化、ST比の安定)
- ◎ 施設面の大規模改装、不具合解決(生徒数増加による教室不足、中等部のICT環境不足など)
- ◎ 「国際教育」を謳う私立中高が増加する中で、SISの教育を高めることとその広報の必要性
- ◎ 帰国生徒への言語サポート体制
- ◎ IBDPの日本語授業導入
- ◎ 同窓会の発展

【重点施策】 (中期的課題を解決するための重点施策を箇条書きしてください。「中期総合経営計画」の実施計画がある場合は、第1順位にしてください。優先順位の高いもの5つ程度)	【中期総合経営計画 実施計画】として取り組むものに○
① 総合学園の「見える化」と関西学院アイデンティティの浸透	○
② 千里国際高等部生徒の本大学への進学率維持	○
③ 千里国際中等部・高等部の中高一貫教育校への転換検討	○
④ 施設の改善 (含:ICT)	
⑤ 言語(日本語)サポート体制の確立	
⑥ IBDP日本語授業導入(再度)検討	
⑦ 海外大学進学者増	
⑧ 受験者増のための広報一般	

【3年間の取り組み状況(中期計画)を測る指標】

- ①スクールモットーの認知度・共感度、②大学への内部進学率、③高校生の授業への満足度向上、④ICT環境への満足度、⑤言語サポート、⑥海外大学進学者、⑦受験者数

【目標や実績を踏まえた次年度に向けた展望】(2020年9月時点)

中等部の入試は引き続き日曜日(解禁の翌日)の実施とすることで受験生は安定して増加。また海外駐在家庭への継続したアプローチにより帰国生の受験生も増加している。帰国生徒の受験者増の背景には Covid-19 の影響もあると思われるため今後の動向に注視する必要がある。

言語サポートに関して、体制の強化は大きく進展していないが関係教員の努力により前進している。引き続き体制の強化を検討する。

キリスト教主義教育の導入について検討してきた。来年度は中等部 1・2・3 年生の「5 リスペクト」の授業(道徳)において関西学院院長および宗教主事の先生方による関西学院の理念とキリスト教主義についての講義の時間を導入する予定である。

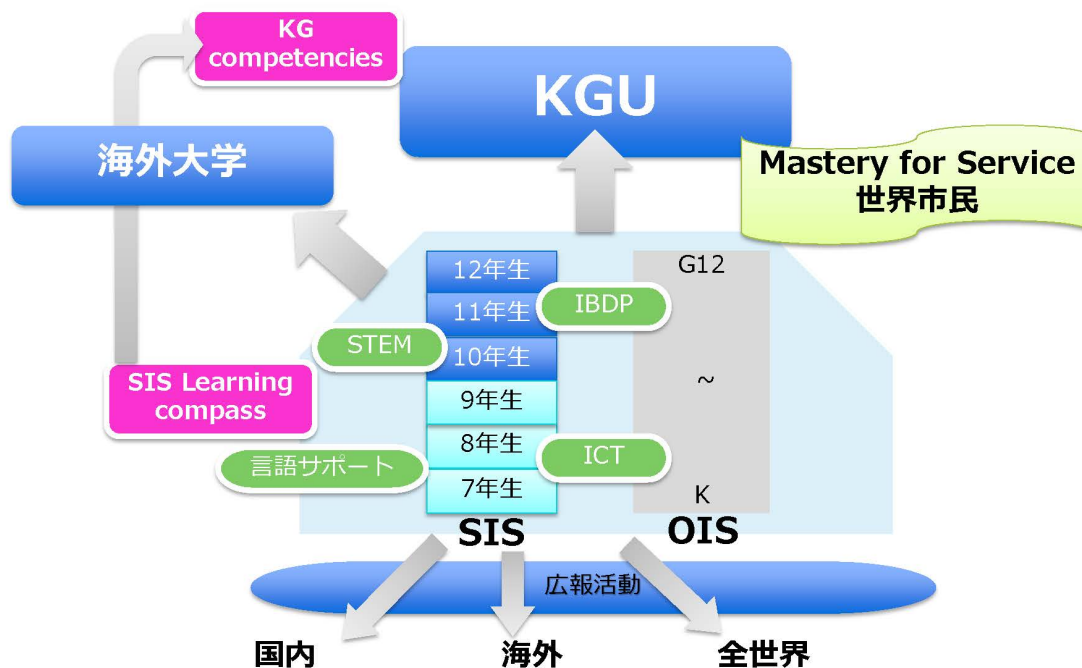
5年間のSGH指定が終了し、ポストSGHとしてSGC(SOIS Global Citizenship プログラム)を設定し4月から運営を開始している。また総合探究専門教員を配置し、教務センター内に総合探究セッションを設け、6年間の総合探究のシーケンスを整えることと教科横断の連携を進めている。来年度もこの新体制の安定をさらに進め、2022年のカリキュラム再編、また6年一貫校への移行の可能性についての協議を進める。

関西学院の理念が一層浸透し内部進学での大学進学率が伸びている。同時に海外の大学への進学者も増加している。海外大学進学者のために奨学金を獲得できることへの支援も強めている。進路サポートホームページを新設して必要な生徒に必要な情報が届くように努めてきたことをさらに定着させたい。ICT環境に関しては、高校生のBYODが定着し、2020年1月より中学1・2年生へのクロームブック導入を始めた。2020年9月よりは希望する中学3年生にもBYODを取り入れる。来年度には中学生が家庭で購入したクロームブックを使用する制度に移行する予定である。

キャンパス全体の大規模な施設改善に関しては Covid-19 の影響で今年度の予定は延期となった。この機会にポストコロナの教育環境として再検討するべきであろう。

3月以降、オンラインでの学習が始まり年度末まで、そして2020年度も春学期全てをオンライン(遠隔学習)で行った。上記BYODやクロームブック導入が背景にあったことが、この困難な時期を乗り越えるのに大いに役立ったといえるが、教員各自の努力と工夫、生徒の努力と創造性、保護者の理解と協力によって成り立ったことと言える。今後も社会の動向に対して敏感に情報収集に努め、生徒にとってのベストな選択を柔軟に取り入れ、中期計画として設定したことに修正・変更を加えることなく進展させていくとの展望をもっている。

【取り組みの全体像】



以上